



萌芽研究への後押し

茨城工業高等専門学校 石村豊穂

私は2005年に博士号を取得しポスドクとしての研究活動を開始しました。先の見えぬ基礎研究を継続していくなかで、初めての研究助成をいただいたことが博士としての最初の歩みでした。博士課程在籍当初は地質学・古生物学を専門としていましたが、有孔虫という海洋微生物の環境指標としての有用性を高めるために、それまで縁の無かった分析化学の研究室に所属を移して新たな分析法の開発を続けていました。その開発には分析システムの構築から基礎実験まで、そして分析機器のハードウェア・ソフトウェア全てを構築する必要があるもので、研究自体の到達地点もおぼろげで、開発費用も時間もいつまでかかるかわからない状況でした。博士号を取得はしたものの、前途を考えると誇りと自信なんていつでも途切れてしまいそうな状況。そんな時にいただいた笹川科学研究助成は、研究費のサポートという意味だけではなく「この研究をやる意義を少なからず認めていただけた」という研究を続けるモチベーションへとつながりました。

その後7年間のポスドク生活を経て、紆余曲折をし、何度も壁にぶつかりつつも現在に至ります。結果的に「分析技術の限界」という問題点を解決し、世界で唯一ナノグラムオーダー（従来の1/100以下）の炭酸塩の安定同位体組成を環境解析に有用な精度で分析する方法を確立することができました。現在は小さい研究室ながらも開発した分析システムを活用した研究体制を構築し応用研究を進めると共に、次世代の地球を担う若者達への教育を行っています。背中を押していただいた私の研究テーマも、環境解析や水産資源管理など、当時では想定していなかったほど多分野にわたる複数の萌芽的な共同研究へと結び付いており、現在も国内外の需要に応えるため信頼性の高い研究基盤の構築・維持、そして将来的にさらに多くの萌芽的な共同研究に対してもお役に立てることをめざしています。

九年前に笹川科学研究助成に採択していただくことがなければ、おそらくは今の研究は継続できていなかっただろうと思っています。笹川科学研究助成は、萌芽的な研究や基礎研究に重きを置き、さらに大学院生の応募が可能など、まさに若手のスタートアップ、そしてこれから独立して研究を続けていく若手研究者の後押しとなっているもので、これからも未来への芽を育む活動を継続していただきたいと思っています。そして私たちは、環境問題や資源問題に直面しているこの21世紀で、サポートしていただいた研究の成果を携え、未来を担う科学技術の確立と社会への還元を目指しているところです。